

SAMPLE

SAMPLE



**N-BLOOD**  
NISMO Communication Magazine



SAMPLE

**N-BLOOD**

NISMO Communication Magazine  
2023 / February  
No. **97**

# 新たなるグリッドへ

SUPER GT GT500クラスとGT300クラス、スーパー耐久のST-Xクラス——  
参戦する国内3カテゴリーで頂点を極めた日産/NISMO  
ほんの束の間、勝利の美酒を味わった各チームのメンバーたちは  
早くも新シーズンに焦点を合わせて走り始めている  
もっと速く。もっと強く。声援を力に変えて、日産/NISMOの挑戦は続く



- 4 **SPECIAL TALK SESSION**  
**SUPER GT 特別座談会**
- 12 **2022 SUPER GT SERIES-GT500 CLASS**  
**最終戦で12号車が王座を決める**
- 14 **2022 SUPER GT SERIES-GT300 CLASS**  
**GT300も制し、日産勢が両クラスを制覇**
- 16 **2022 SUPER TAIKYU SERIES**  
**62号車がST-Xクラスチャンピオンを獲得**
- 18 **FORMULA E SPECIAL INTERVIEW**  
**サッシャ・フェネストラズ**  
**日本から、新たな挑戦へ**  
**トマソ・ヴォルペ**  
**復活の時、来たる**
- 22 **MOTORSPORTS**  
**Paddock TOPICS**
- 24 **NISMO FESTIVAL AT FUJI SPEEDWAY 2022**  
**多彩なコンテンツに3万人が熱狂**
- 28 **TOKYO AUTO SALON 2023**  
**年始恒例のビッグイベントで**  
**NISSAN GT-Rの**  
**2024年モデルがアンペール**
- 30 **NISMO LEGEND CARS**  
**NP35編**  
**3.5ℓ V12を搭載した究極の日産グループCカー**
- 32 **NMC AUTECH OPERATION**  
**AUTECHブランドを知る vol.3**  
**カスタムカーのあゆみ**
- 34 **SPECIAL IMPRESSION**  
**同じエンジンを搭載する**  
**2台のスポーツモデルを高星選手が乗り比べ!!**
- 38 **NISSAN/NISMO COLLABORATION GOODS**  
**NEED FOR SPEED / SEGA / air-J**
- 39 **PRESENT**  
**読者プレゼント**



**ベルトラン・バゲット**  
Bertrand Baguette

**星野一樹**  
Kazuki Hoshino

**星野一義**  
Kazuyoshi Hoshino

**平峰一貴**  
Kazuki Hiramane

**藤波清斗**  
Kiyoto Fujinami

**近藤真彦**  
Masahiko Kondo

**ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ**  
Joao Paulo de Oliveira



# Special Talk Session

## SUPER GT特別座談会

2022年のSUPER GTにおいてGT500とGT300を制したTEAM IMPULとKONDO RACING 厳しいシーズンにいかにか戦い、王座を手にしたのか—— N-BLOODだからこそ実現した豪華メンバーによる“ぶっちゃけトーク”満載のスペシャル座談会をお送りします

——今回は、NISMO FESTIVAL 開催中の富士スピードウェイにて、GT500クラスとGT300クラスでチャンピオンに輝いたTEAM IMPULとKONDO RACINGの監督とドライバーの皆さんが集まっていたり、1年間を振り返っていただきます。まずはTEAM IMPULの星野一義監督、

27年ぶりのタイトル獲得、おめでとうございます。今のお気持ちを聞かせてください。  
**星野一義 (以下一義)**：ここまで間が空くとは思ってなかったよ。それでも、チャンピオンに恵まれたのはふたりのドライバーのおかげだね。最初は少し心配していたの。ウチのチームは仲良しレ

グループじゃないから、思い切りぶつかってケンカするような関係が僕のタイプ。でもふたりは、まるで恋人同士みたいに仲がいい(笑)。でもね、僕の考えはこのシーズンでひっくり返されたね。ふたりはお互い合意のうえでセッティングして、話し合いもとてもスムーズ。そこに(星野)一樹

が監督代行として入って、エンジニアとドライバーの仲介をした。これが、実にうまくいった。だから、僕は正直、なにもしていないよ。——ふたりのドライバーがどんな様子だったのか、たとえばレース中の無線での様子など、もう少し教えていただけますか？  
**一義**：基本的に、ウチのチームは無線に僕の声が入らないようにしている。でも、ふたりとも「トラクションがない」とか「タイヤがタレてきた」とかは一切言っていない。エンジニアとはたまに話したりしているけれど、そんな時に僕は「話なんかしている場合じゃないだろ！」って。なにしろ、自分の力を100%出し切るのがドライバーの仕事。だから、ウチのチームはレース中にあまり会話はしないよ。——その間、ドライバーは大変な思いをしながらマシンを操っているわけですよね？  
**一義**：彼らはプロなんだから、大変な仕事するのは当たり前。それでお金をもらっているのだから、甘えるなって話ですよ。とにかく、ウチはそういうチームです。——そんな星野監督の期待に、ふたりのドライバーはしっかりと応えてくれたわけですね？  
**一義**：それはもう、応えすぎるくらい応えてくれた。とにかく最高のコンビだったので、ボーナスを2億円ずつ払おうかと思っているくらい(一同爆笑)。まあ、それはジョークだけどね(笑)。——2022年シーズンで、どのレースが最も記憶に残っていますか？  
**一義**：記憶に残っているというか、やっぱりプレッシャーがかかっていたのは最終戦のもてぎだよ。実際には、ドライバーより僕の方がプレッシャーを感じていくくらいで、言葉では「気楽にいけよ！」って言うているけれど、本当はもうドキドキで、モニターも見られない(笑)。「セクター1はコンマ何秒、セクター2はコンマ何秒」とか無線で話しているのも、なるべく耳にしないようにしていた。それでも半分聞き直って、「なるよ

最終戦は言葉では「気楽にいけよ！」と  
言っていたけれど  
本当はもうドキドキで  
モニターも見られない(笑)  
**星野一義**



うにしかならない」って割り切っていたところもあったね。  
**王座を賭けて挑んだ最終戦もてぎ チームを覆っていた緊張感**  
——平峰選手は、どのような気持ちでしたか？  
**平峰一貴 (以下平峰)**：今でこそ少し落ち着いてきましたが、レースが終わった直後は、ホッとした気持ちがある一方で、身体や脳味噌のどこかに週末の緊張感が残っていて、急に心臓がバクバク鼓動を打ちだしたりしていました。  
**一義**：だって、顔色が青かったもの。ものすごい緊張感だね。肩でも揉んであげようかと思っただいよ。それがよく分かった。  
**平峰**：本当に、レースウィークに入る前から張りつめていて、寝ようとしても寝つけなかったし、胃がキリキリと痛むこともありました。特に、決勝で走った40ラップは、僕のレース人生のなかで一番きつかったほどです。——ベルトラン・バゲット選手はどうでしたか？  
**ベルトラン・バゲット (以下BB)**：やはり最終戦でしたね。僕自身も緊張していました。たったひとつのミスでタイトルを失いかねない状況だったので、とても長く感じられたし、プレッシャーも大変でした。でも、結果的に僕たちは信じられないような仕事をやってのけたと思います。——やはり相当なプレッシャーでしたか？  
**BB**：スタートから直後にライバルとなる3号車がいいたので、その前をキープするために最初の1周はまったく気が抜けませんでした。とても長く、とてもプレッシャーが強い時間でしたね。——バゲット選手にとっては、ホンダ陣営から、TEAM IMPULに移籍して初のシーズンでタイトルを勝ち獲ることになりました。TEAM IMPULは、どんな雰囲気でしたか？  
**BB**：まず、チャンスをくださった星野監督とカズキ(星野一樹テクニカルアドバイザー)にととても感謝しています。僕はホンダでずっとレース

を戦ってきたから、日産のことやTEAM IMPULのことはよく分かっていませんでした。だから、日産やチームのことを理解しようとして、自分としても精一杯努力したし、カズキや平峰選手、それにチームのみんなに強力にサポートしてもらいました。そして、チームが僕のことを信頼してくれていると、すぐに理解することができました。これは日産/NISMOについてもまったく同じで、非常にラッキーだったと思います。——バゲット選手から見て、星野監督はどういう人ですか？  
**BB**：とにかく、感情の人ですね(笑)。でも、1シーズン一緒に仕事をして、星野監督のことが本当に好きになりました。なんと言ったらいいのか、とても誠実な人です。僕は、このチームに加入した直後から速く走ることができたので、その点では居心地が良かったけれど、ある時、星野監督、カズキ、それに高橋(紳一郎工場長)さんが僕に「ベルトランは、レースのペースは速いけれど、僕たちは予選でも速いドライバーになってほしいと思っている」と、伝えてくれたのです。ドライバーにとって、自分がどの領域を進化させるべきかを知るの、とても重要。これまでは、そういう話を聞かせてもらう機会がなかったけれど、星野監督はそれははっきりと言ってくれました。つねに誠実で、僕がいい仕事をすれば「良くやった」と言ってくれたし、いい仕事ができなかった時には「あれは良くなかった」と指摘してくれます。それが、僕にとって星野監督たちの一番好きなところですよ。  
**物を言わずともチームに伝わる 星野一義監督の存在感**  
——ここでGT300でチャンピオンに輝いた近藤真彦監督にお話をうかがいたいと思います。近藤監督、タイトル獲得おめでとうございます。今のお気持ちをお聞かせください。  
**近藤真彦 (以下、近藤)**：GT500クラスでタイトルを勝ち獲るのはもちろん大変です。3メー